

俳句を楽しもう

葛巻俳句会 齋藤誠子さん

靑空高く高く鯨雲、広々とした高原の牧場に、牛が転々と散って草を食んでいて、おなかがいっぱいになった牛は反すうしながらのんびりと安らいでいる。その風景を思い浮かべると爽やかな風が吹いていると思いませんか。「風」の字がなくても、俳句を読んだあとに風を感じる

いっし

延べて安らふ 牧の牛

黛 まどか

今月も「黛まどか選葛巻町風と恋の句集」より、黛さんの俳句を紹介いたします。頂戴した「葛巻八句」のうち七句は「風」に関する俳句です。黛さんが毎年葛巻にいらっしゃるのは秋ですから秋の俳句に集中するのは当然のことですが、旅人の目から見る葛巻の素敵な風景を切り取って、我々町民に示していただきました。唯一「風」という言葉が入っていないで、我々には見慣れた風景の俳句が次の一句です。

この俳句のように、想像力をかきたてるものに「朗読」があります。黛さんの俳句と同じ年からはじまった大人のための朗読会は今年で11年を迎えました。樹原ゆりさんを中心としたプロの俳優さんの朗読は、ぎしぎしとこり固まった頭に、刺激を与え、時には涙とともに素直な感情を呼び覚ましてくれます。物語の中に引き込む力は、さすが俳優さんだなあといつも感動します。昨年には教育委員会主催の小中学生のための朗読会も始まりました。プロの朗読を聞くことで、知らないうちに文化にふれているのです。

この一句から学ぶのは、「俳句は説明になってはいけない」ということでしょうか。たった17文字では、「これを伝えたい」と選んだ言葉を使い、その数少ない言葉がもつ意味の一つ一つが作り手と読み手の共感と想像力を広げるように思います。この俳句のように、想像力をかきたてるものに「朗読」があります。黛さんの俳句と同じ年からはじまった大人のための朗読会は今年で11年を迎えました。樹原ゆりさんを中心としたプロの俳優さんの朗読は、ぎしぎしとこり固まった頭に、刺激を与え、時には涙とともに素直な感情を呼び覚ましてくれます。物語の中に引き込む力は、さすが俳優さんだなあといつも感動します。昨年には教育委員会主催の小中学生のための朗読会も始まりました。プロの朗読を聞くことで、知らないうちに文化にふれているのです。

（現代俳句歳時記 角川春樹著より）
これから3カ月は雪と寒さの暮らしが静かに続きます。身近にある品や風景で、俳句を作るのも楽しいものです。「葛巻町民俳句コンテスト」にもぜひ応募してみてください。平成25年1月27日が締め切りです。

・マフラーをして植木屋と
打合はす
谷口 摩耶

（現代俳句歳時記 角川春樹著より）

・着ぶくれて
そのおのおの
机かな
斎藤 夏風

・着ぶくれて
老の命を 惜しむなり
富安 風生

・着ぶくれて
そのおのおの
机かな
斎藤 夏風

・着ぶくれて
老の命を 惜しむなり
富安 風生

・着ぶくれて
そのおのおの
机かな
斎藤 夏風

・着ぶくれて
老の命を 惜しむなり
富安 風生

・着ぶくれて
そのおのおの
机かな
斎藤 夏風

・着ぶくれて
老の命を 惜しむなり
富安 風生



横綱のかぼちゃ（江川地区）㊦ 大人気の焼きいも（小田地区）

晩秋をずっぱり楽しむ 大盛況の各地区文化祭

江川地区文化祭は11月3～4日、江川農村センターで開催されました。目玉のイベントはなんといっても「第9回かぼちゃコンテスト」で、今年春先から各地区・各家庭などで育ててきたジャンボかぼちゃが勢揃い。今年の横綱は深沢正秋さん（野中）の重さ290kgで直径1mを超える大かぼちゃでした。

同月3日、北部地区文化祭は旧小田小学校などで開催、小田やすらぎの家・民俗資料館も開放されました。またグランドゴルフなどでスポーツ交流や、焼きいもなどを行い、地域ぐるみで晩秋を楽しんでいました。

小屋瀬小130周年の記念講演

小屋瀬小学校130周年記念講演会が11月19日、同校体育館で行われ児童と保護者ら約60人が参加しました。



夢の実現を語る鈴木町長

同校の卒業生でもある鈴木重男町長が記念講演し、教育や医療の充実など「安心して暮らせるまちづくり」についてや、得意でないことにも挑戦することの大事さなどを語りました。山中優奈さん（6年）は「夢を持つことの大切さ、夢を叶えようと努力することの大切さを学びました」と話しました。

優勝目指しきき酒・ききワイン

2012グリーンテージ杯きき酒・ききワイン大会は11月17日行われ、職場や地域、同級生など5人一組、24チームが豪華賞品を目指し真剣勝負しました。



バンザイする優勝チーム

大会は県内の日本酒とくすまきワインの赤、各5種類を5分間で当てるもの。参加者らは香りや色、味など五感を集中させ飲み比べていました。【結果】優勝・のんでのんでの葛巻自工A、第2位・おニャン子クラブ、第3位・岩手銀行葛巻支店

樹原ゆり・高橋和久の語り舞台

葛巻朗読会実行委員会主催の「樹原ゆり・高橋和久朗読会2012秋in葛巻」が11月21日、総合センターで行われました。今回の朗読作品は、今年2月に引き続き浅田次郎の「天切り松 闇がたり」の第二幕・槍の小輔。会場に詰めかけた町民ら約60人は、情感あふれる語り舞台に引き込まれました。



樹原ゆりさんと高橋和久さん

このほか小中学校でも朗読会を行い、小学校で「わさお」、中学校では「ハードル」を披露しました。

おはなしくくる・初の朗読会

保育園や小学校で読み聞かせのボランティアをしている「おはなしくくる」（荒谷光子代表・会員10人）の初めての朗読会「本・と・の・ひ・と・と・き」が11月22日、総合センターで行われました。第1部は11作品を、第2部はパネルシアターや群読などで3作品を披露。参加した約30人は、心を込めた朗読に拍手を送っていました。荒谷代表は「初めての朗読会、大人の人にも楽しんでもらえてうれしいです」と喜びました。



やさしく、楽しい朗読を披露

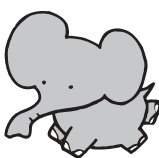
秋の夜長に「朗読会」

Elephant happy

I visit the nursery schools in Kuzumaki town once a week. There are lots of very small children of different ages. I was worried that it would be difficult to make a fun activity for different children, of different ages. Also I was worried that it would be hard for such little people to remember new words and phrases from week to week. I was so happy to realise my mistake on a recent nursery class visit. The little people are like sponges soaking up new words and phrases very quickly. I wish I could learn Japanese so quickly.



マラキ・ブルム (英語指導助手・34歳)



しい活動を行うのは難しいだろうと心配していました。それに、こんなに小さな子どもたちが週ごとに新しい単語やフレーズを覚えるのは大変だろうとも思いました。最近の保育園への訪問で、それが僕の間違いだったと分かってうれしいです。子どもたちはスポンジのように新しい単語やフレーズを吸収しています。僕もこれくらい早く日本語を覚えられればなあ……。